



# OpenOffice.org 1.1

## 導入ガイド

For Windows

インストール編



あわしろ いくや  
ikuya@openoffice.org

OpenOffice.org 日本ユーザー会  
<http://ja.openoffice.org/>

## Public Documentation License Notice

The contents of this Documentation are subject to the Public Documentation License Version 1.0 (the "License"); you may only use this Documentation if you comply with the terms of this License. A copy of the License is available at <http://www.openoffice.org/licenses/PDL.html>.

The Initial Writer of the Original Documentation is AWASHIRO Ikuya. Copyright (C) 2003. All Rights Reserved. (Initial Writer contact(s): [ikuya@openoffice.org](mailto:ikuya@openoffice.org)).

Contributor(s): refer to page of Contributors.

## このドキュメントについて

このドキュメントは、[OpenOffice.org 1.1](http://www.openoffice.org) 導入ガイドから、インストール関連ページを抜粋したものです

## 最新版/関連ファイル

このガイドの最新版、PDF 変換前の原版、作成したサンプル、使用したイラストなどは、次のサイトで入手できます。

OpenOffice.org 1.1 活用ページ (for Windows) <http://oooug.jp/1.1/katsuyou/>

OpenOffice.org 1.1 Support Page (for Linux/Solaris) <http://desktop.good-day.net/ooo11/>

## さらに理解を深めるために

Step 3 の説明では足りないという方は、可知豊さんによる「OpenOffice.org オープンマニュアル」をご覧ください。

Writer, Calc, Impress, Draw のさらに詳細かつわかりやすい解説が掲載されています。

OpenOffice.org オープンマニュアルは次のサイトで入手可能です。

<http://oooug.jp/start/#question>

また、OpenOffice.org 日本ユーザー会による公式マニュアルが発売されています。

『OpenOffice.org オフィシャルユーザーズガイド』

<http://book.mycom.co.jp/book/4-8399-1141-X/4-8399-1141-X.shtml>



# Step 1:使えるようにしよう



続いては、インストール方法の解説です。いわゆるセットアップですね。

これが終われば、OpenOffice.org が使えるようになります。

手順は、普通のアプリケーションと同じです。

操作説明に従って、進んでください。

## 1.1 インストール方法を選択する

OpenOffice.org のインストールには、2 つの種類があります。「シングルユーザーインストール」と「マルチユーザーインストール」です。

次の場合には、シングルユーザーインストールを行います。

- PC を一人で使っている
- PC 1 台を何人かで共有していて、ログイン名を共通にしている

ほとんどのユーザーは、シングルユーザーインストールでいいでしょう。よくわからない場合は、こちらを選んでおきましょう。説明によっては、スタンドアロンインストールとなっている場合があります。

次の場合には、マルチユーザーインストールを行います。

- PC 1 台を何人かで共有していて、各ユーザーがユーザ名を持っている
- 複数のパソコンを LAN で結び、そのうち 1 台をファイルサーバーにしている

こちらは、ネットワークインストールと呼ばれる場合もあります。

マルチユーザーインストールは、「共有インストール」と「個別インストール」という 2 つのステップに分かれています。

もし、以前インストールしたことがある方は、2.6 の「バージョンアップする場合」をご覧ください。

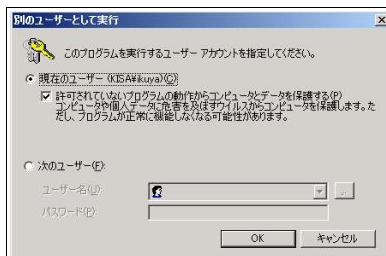
## 1.2 シングルユーザーインストール

まずはシングルユーザーインストールの手順を説明します。

OpenOffice.org を解凍してできたディレクトリにある setup.exe をダブルクリックし、起動させます。

ユーザー権限でインストールしようとした場合は、このダイアログが出てきます(Windows 2000 も XP もほぼ同じダイアログです)。

もしこのダイアログが出てきた場合は、マルチユーザーインストールを行うことを強くお勧めします。[キャンセル]をクリックして 2.5 のマルチユーザーイン



トールの項を参考にインストールしてください。

インストール作業に必要なファイルの解凍が始まります。



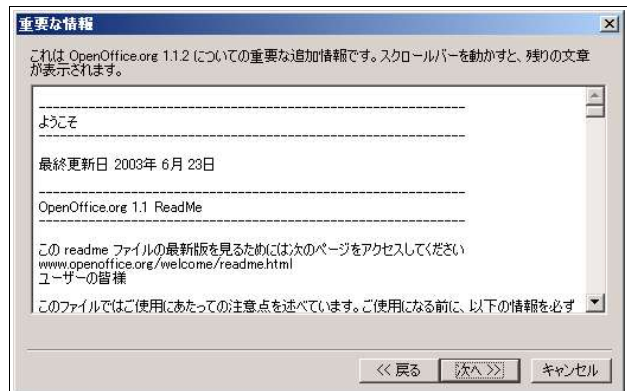
解凍が終わると、セットアッププログラムが表示されます。

インストールのスタートです。

[次へ]をクリックします。



OpenOffice.org の「重要な情報」が表示されます。ひとつお読みした後、[次へ]をクリックします。



ソフトウェア許可協定が表示されます。

OpenOffice.org 1.1 では、ライセンスを全て読んで、(一番下までスクロールさせて)[協定条件に同意します]にチェックを入れないと[次へ]がクリックできません。



ユーザーデータの入力です。

入力しなくてもインストールはできますが、[バージョン管理]機能を使うことを考えると、名前くらいは入力しておいた方がいいでしょう。

入力してから[次へ]をクリックしてください。



インストールの種類を選択します。

ここではデフォルトの[標準インストール]を行っています。そのまま[次へ]をクリックしてください。



インストールディレクトリの設定です。

OpenOffice.org をインストールするディレクトリを指定します。

このままでいいでしょう。

[次へ]をクリックしてください。

もしディレクトリがない場合は、作成を確認するダイアログが出てきます。

[OK]をクリックしてください。



インストールの設定作業は、これで終わりとして表示されます。

[インストールする]ボタンをクリックします。

でも、作業はこれで終わりではありません。



関連づけの設定です。お好みにあわせてチェックを入れてください。

Microsoft Office がインストールされていればチェックを入れない方がいい

でしょうし、インストールされていなければチェックを入れると便利でしょう。

チェックを入れた場合、チェックを入れたソフト (Word, Excel, PowerPoint) の関連づけが変更され、保存されている各ファイルが起動された場合に OpenOffice.org で開かれるようになります。今までどおり Microsoft Office で開きたい方はチェックを入れないでください。

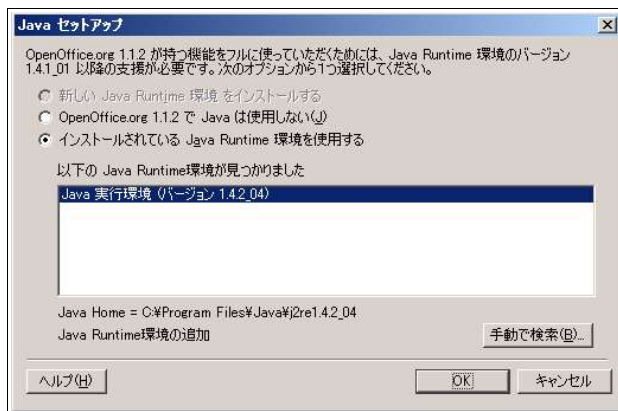


ここでは、Java VM の設定をします。

すでに Java VM がインストールされているならそのまま[OK]ボタンを押しましょう。

もしインストールされていなければ、[OpenOffice.org 1.1.2 で Java は使用しない]にチェックを入れます。

複数インストールされていれば、使用する Java Runtime 環境を選択します。



いよいよインストールが始まります。しばしばお待ちください。

数十秒ないし数分でインストールが完了します。

シングルユーザーインストールはこれで終了です。



## 1.3 マルチユーザーインストール

ここでは、マルチユーザーインストールの手順を説明します。

すでに説明したように、1 台の PC で複数のユーザーが使い分ける場合には、こちらのインストール方法にします。

この作業は、共通インストールと個別インストールの 2 つに分かれています。

### 1.3.1 共通インストール

マルチユーザーインストールは、一度だけ行う共通インストール(別名サーバーインストール)と、各ユーザーアカウント毎に行う個別インストール(別名ワークステーションインストール)に分かれます。

まずは共通インストールから行いましょう。

共通インストールの場合、インストール前に少々工夫が必要です。シングルユーザーインストールでは setup.exe を起動するだけでよかったのですが、共通インストールでは管理者権限で setup.exe にオプションをつけて起動する必要があります。

スタートメニューにある[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

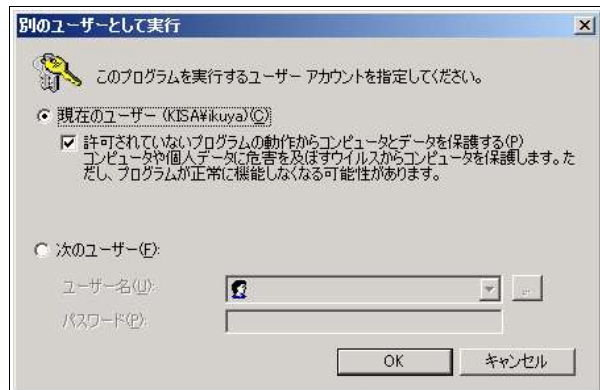
ダイアログが出てきますので、そこに setup.exe をドラッグ&ドロップするか、[参照]から setup.exe を探してください、さらに setup.exe の後ろに半角スペースを入れ、-net をつけてください。



もし“(ダブルクォーテーションマーク)”が setup.exe の後ろにある場合は、“の後ろに -net を入れます。

このダイアログが出てきた場合、コンピュータの管理者さんにインストールしていかどうか問い合わせてみてください。

残念ながら、あなたの権限ではインストールすることを許されていません。



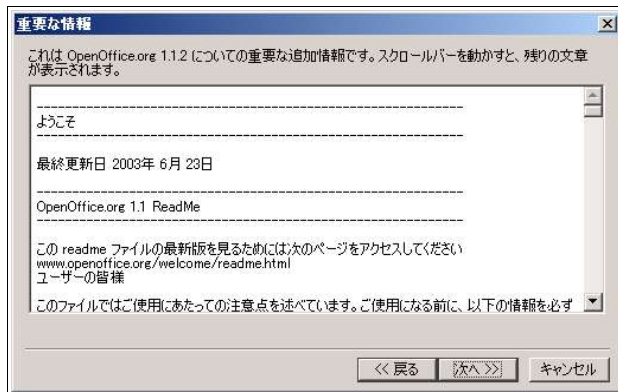
いよいよインストールを始めます。

[次へ]をクリックします。



OpenOffice.org の「重要な情報」が表示されます。

[次へ]をクリックします。



ライセンスを全て読んで(一番下までスクロールさせて)[協定条件に同意します]にチェックを入れます。



インストールの種類を選択します。  
ここではデフォルトの[標準インストール]を行います。  
そのまま[次へ]をクリックしてください。



OpenOffice.org をインストールするディレクトリを指定します。

デフォルトで問題ないでしょうが、変更する場合はディレクトリを指定してから[次へ]をクリックしてください。

もし指定したディレクトリが存在しない場合は、ここで作成するかどうか確認のメッセージが出ます。



インストールの設定が完了したと表示されました。

[インストールする]ボタンをクリックします。



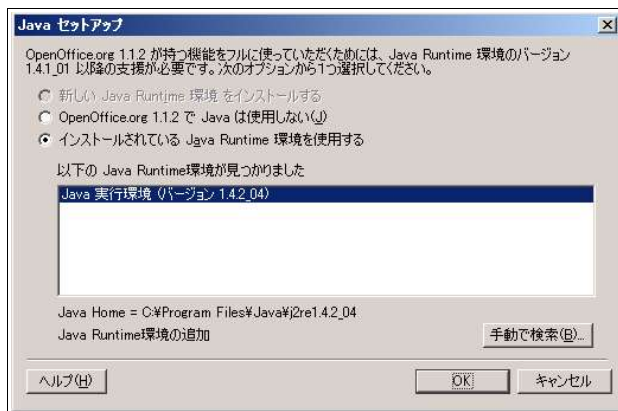
Java VM の選択画面になります。

すでに Java がインストールされているなら、そのまま[OK]ボタンを押しましょう。

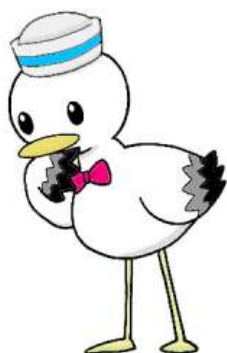
もしインストールされていないければ、[OpenOffice.org1.1.2 で Java は使用しない]にチェックを入れます。

複数インストールされていれば、使用する Java Runtime 環境を選択します。

[OK]ボタンをクリックすると、実際にインストール作業が行われます。しばらくお待ちください。



これで共通インストールは完了です。引き続き個別インストールに移ってください。



## 1.3.2 個別インストール

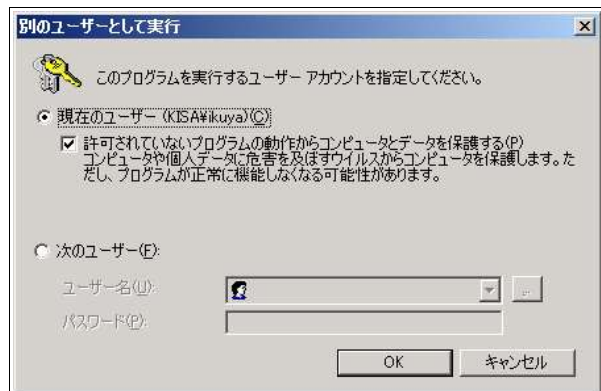
マルチユーザーインストールでは、共有インストールに続いて、個別インストールが必要です。この操作は、各ユーザーが個別に行います。

まず、インストールしたフォルダを開いてください。

標準では C:\Program Files\OpenOffice.org1.1.2 です。  
ここにある、“OpenOffice.org Setup”を起動します。



もしこのダイアログが出てきたら、今度はユーザー権限でインストールするので、そのまま[OK]をクリックします。

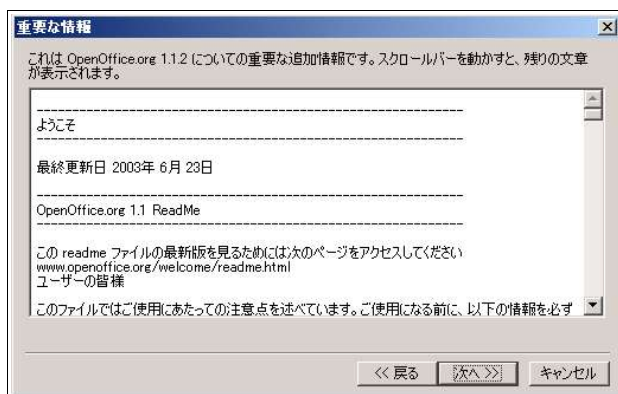


やはり、このダイアログが出ます。  
[次へ]をクリックします。



OpenOffice.org の「重要な情報」が表示されます。

[次へ]をクリックします。



「ソフトウェア許可協定」です。一番下までスクロールして[協定条件に同意します]にチェックをつけます。



ユーザーデータの入力です。

名前くらいは入力して、次へ行きましょう。



インストールの種類を選択します。

ここでは、[ワークステーションインストール]を選択します。

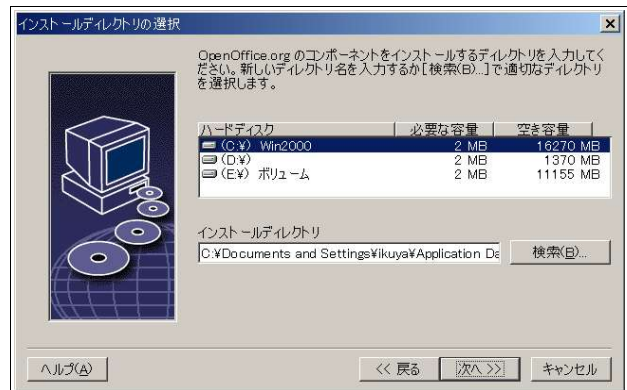


インストールするディレクトリを指定します。

デフォルトのままでもいいでしょう。

[次へ]ボタンをクリックします。

ディレクトリがない場合、ディレクトリを作成するかどうかの確認ダイアログが出ます。[OK]をクリックしてください。



[インストールする]ボタンをクリックします。



関連づけの設定です。お好みにあわせてチェックを入れてください。

Microsoft Office がインストールされていればチェックを入れない方がいいでしょうし、インストールされていなければチェックを入れると便利でしょう。

チェックを入れた場合、チェックを入れたソフト(Word, Excel, PowerPoint)の関連づけが変更され、保存されている各ファイルが起動された場合に OpenOffice.org で開かれるようになります。今までどおり Microsoft Office で開きたい方はチェックを入れないでください。



インストールが始まりますが、すぐに終わります。



これで完了です。

他のユーザーが OpenOffice.org を使う場合、そのユーザーのアカウントでログインして、同じように個別インストールを行います。

## 1.4 バージョンアップする場合

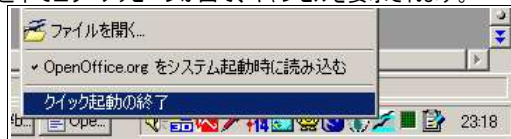
### 1.4.1 まず注意すべきこと

インストールを開始する前に、必ずクイック起動を終了させてください。

もし起動してインストールを開始した場合は、インストールの途中でエラーメッセージが出て、キャンセルを要求されます。

クイック起動は、タスクトレイにあるカモメのアイコンを右クリックし、[クイック起動の終了]

をクリックすることによって終了させることができます。



### 1.4.2 バージョンアップの種類

バージョンアップは2つの方法で行うことができます。

- 更新

現在インストールされているディレクトリに上書きします。

設定などを引き継ぐことができ便利です、予期せぬ不具合が発生する可能性があるのであまりお薦めはしません。

- 新しいディレクトリにインストール

新しくディレクトリを作成し、そちらにインストールします。

この方法だと、以前のバージョンと共存させることができますが、あまり役には立たないでしょう。

設定などを引き継ぐことはできないので、新たに行う必要があります。

### 1.4.3 更新できる条件

新しいディレクトリにインストールするのは比較的簡単ですが、更新の場合はある条件を満たさなくてはなりません。

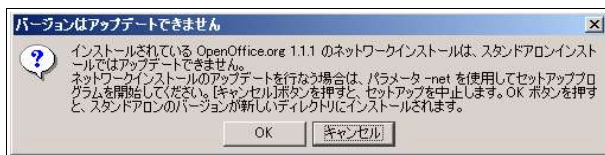
その条件とは、インストール方法が同じであることです。

例えばシングルユーザーインストールでインストールした場合、更新もシングルユーザーインストールで行う必要があります。

更新できる場合、次のようなダイアログが表示されます。



更新できない場合、次のようなダイアログが表示されます。





## 1.4.4 ネットワークインストールの場合

個別インストールは自動的に更新されます。



いずれの場合も、これらのダイアログのあと「重要な情報」に続きますので、シングルユーザーインストールの場合は 2.4 に、マルチユーザーインストールの場合は 2.5 に戻ってインストールを続行してください。

## 1.5 アンインストール

OpenOffice.org をアンインストールするには、コントロールパネルの[ファイルの追加と削除]で OpenOffice.org 1.1.2 を指定します。

インストールプログラムが呼び出されますので、[削除]を選択します。



ディレクトリごと削除するかどうか決めてください。[すべてのファイルの削除]で問題ないでしょう。



アンインストールの方法は、シングルユーザーインストールでも、個別インストールでも同じです。

共有インストールの場合は、“-net”のオプション付きで setup.exe ないし Setup のショートカットを起動してください。



## Step 2:付記



### 2.1 執筆

あわしろいくや

### 2.2 Contributor (貢献)

可知 豊

Portions created by Yutaka Kachi are Copyright(C)2003 All Rights Reserved. (Contributor contact(s): catch@openoffice.org).

### 2.3 協力

三月(イラスト)

谷口康明(Solaris 対応)

OpenOffice.org 実験室

(株)グッデイ

### 2.4 変更来歴

2004-06 1.1.2 対応版リリース

2004-06-20 インストール編 catch

## 2.5 その他

本文中のフォントは、(株)モトヤの著作物である「モトヤシーダ1」を使用させていただいてますが、現在このフォントは公開されていません。修正する場合は、ほかのフォントを使用してください。

(株)モトヤの Web サイトは <http://www.motoyafont.jp/> です。

なお、使用フォントは今後の更新で変更される予定です。

Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Sun, Sun Microsystems, Java, Solaris, StarOffice, StarSuite は米国 Sun Microsystems, Inc の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Intel, Pentium はアメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。

Microsoft, Microsoft Windows, Microsoft Office は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

X Window System は、米国 X Consortium Inc. の登録商標です。

Macromedia, Macromedia Flash は米国 Macromedia, Inc の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他本文中に記載されている製品の名称は、関係各社の商標または登録商標です。なお、本文中では TM マークおよび R マークは明記していません。

